

ごあいさつ

このたびは追手門学院大学附属図書館『宮本輝ミュージアム』にご来場いただき、誠にありがとうございます。2009年秋、青春小説の“王道”と評される「青が散る」をテーマに企画展を開催します。

1966年、宮本輝は、追手門学院大学に第1期生として入学しました。作品の登場人物たちと同じくテニスコート造りからはじめ、テニスに打ち込む大学生活でした。

「…「道頓堀川」が、私の青春の“夜”を描いたものだとなれば、この「青が散る」は“昼”の部分を描いたものだというのもできそうです。」（『青が散る』文藝春秋1982年刊あとがきより抜粋）と宮本輝が記しているとおり、自身の青春の日々をもとに、本作品を執筆しました。

今回の企画展では、作品の主な舞台である大学に焦点を当ててご紹介いたします。

今回の企画展に際しまして、多くの方々のご協力を得ました。関係各位の多大なるご協力に感謝し、この場を借りて深くお礼を申し上げます。

宮本輝ミュージアム

（文中敬称略）